



スマイルと真心はタダ

奈良県代表

ならけんちべんがくえんなら
奈良県智辯学園奈良カレッジ中学部3年

おがわ かほ
小川 歌穂

私の家の近くに、あるコロッケ屋さんがある。コロッケ屋さんとは思えないほど種類が豊富で、しかも安い。今では私の行きつけの店である。とは言っても、10数年前から営業しているのに、私は最近まで行ったことがなかった。

先日たまたま、母の使いで、コロッケを買いに行った。近所の人の口こみで、おいしいと評判だったその店は、とてもこじんまりしていて、「コロッケ、その他色々在ります」という張り紙がされているだけだった。私はその外観を見たとき、よほよほのおばあさんが、危なっかしい手つきでコロッケを揚げている光景を目に浮かべた。本当にここが、おいしいと評判のコロッケ屋さんなのか……。そんな思いで扉を開けた私を待っていたのは、「いらっしゃい！」という元気な声と、満面の笑顔のおじさんだった。人と話をするのがあまり得意でない私は、いきなりの馴れ馴れしい態度にとっても驚き、やっとの思いで、

「コロッケ4つ下さい。」

と言うと、それきり黙ってしまった。少しうつむき加減だった私を見て、おじさんは、

「はい、コロッケ4つと真心ですね。」

と言った。私が、えっ？と声を出して顔をあげると、おじさんは、うちは注文を聞いてから揚げるスタイルなんですよと言った後、コロッケを揚げながら、

「スマイルと真心はタダなんやから、買わなきゃ損でしょう。」

と言って笑った。私はすっかり面食らってしまい、おじさんの顔をぼかんと見つめていた。

おじさんは、それからコロッケが揚げ終わるまでの約5分間、色々な話をしてくれた。初めは聞き役だった私も、だんだんと話すようになり、お互い阪神タイガースのファンだということがわかった時は、2人で野球の話をして盛り上がった。

コロッケが揚がり、渡された袋を見ると、何故かコロッケが5つ入っていた。私が不思議に思っていると、おじさんが、満面の笑顔で、

「それは真心分。今日は初めて店に来てくれたから、特別

やで。」

と言った。私が、嬉しくて、ありがとうございます、と笑顔で言うと、おじさんもうなずきながら笑い返してくれた。帰りの道中、私はなんだか幸せな気分だった。

翌日、私が登校しようと自転車を走らせていると、突如、元気のよい声で、「いってらっしゃい。」という声が聞こえてきた。私はびっくりして自転車を止めた。すると、コロッケ屋のおじさんが、ほうきとビニール袋を持って立っていた。私が、

「おはようございます。何をしていたんですか？」

と聞くと、おじさんは、ビニール袋を掲げてみせ、

「掃除や。この先の公園、よく汚れてるやろ。だから、最近朝早くに起きて、コロッケしこむついでに掃除してんねん。」

と言った。私は、そういえば母が、この前からやけに公園がきれいになった、と話していたのを思い出した。私が、「そうなんですか。」としきりに感心していると、おじさんは、腕時計を私に見せ、時間は大丈夫か、と言った。おじさんに差し出された時計を見ると、電車の時間まであと少ししかなかったので、おじさんに、「いってきます。」と告げ、学校に向かった。

学校の帰り、私は、なんとなく帰る通学路を変更し、コロッケ屋さんの店の前を通ってみた。きっと、今朝の挨拶の余韻が残っていたのだと思う。朝、たった一言、「いってらっしゃい。」と言われただけなのに、私はとても心が温かくなっていた。そして、店にいるおじさんに、「ただいま。」

と言ってみた。すると、おじさんは満面の笑顔で、

「おかえり。」

と返してくれた。

人の笑顔というものは、不思議なものだと私は思う。

人の心からの笑顔1つだけで、人の心を温かくできるのだから。「スマイルと真心はタダ」-この言葉は、今でも私の心の中に強く残っている。

今日も、私は、スマイルと真心を買いにあの店へ行く。